

①笠岡・金浦⇒矢掛・小田 (13km 4:30)

鮮魚輸送の出発地金浦から吉備高原の麓まで
なだらかな里山を行くとと道入門コース

コースタイム (参考値)

JR笠岡駅⇒金浦魚市場跡
(タクシー0:10)

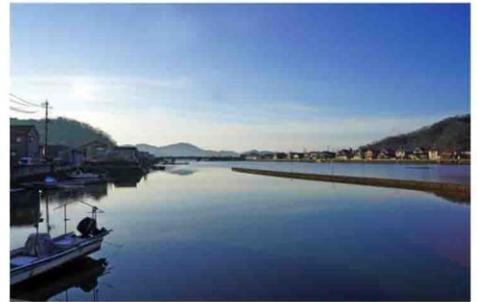
⇒①大戸口バス停 (1:10)

⇒②ときわヴィレッジ (1:10)

⇒③茶堂跡 (1:30)

⇒④井原線小田駅 (0:40)
計4時間30分

井原線小田駅発 (2021. 2現在)
上り/14:01、15:23



西浜の海岸



助実地区聖地



ふるさとの森遊歩道



小田川辻橋跡



① 笠岡・金浦→大戸口バス停留所



② 大戸口→井原広域斎場前



③ ときわヴィレッジ→茶堂跡



④ 茶堂跡→小田の地蔵堂



1-1 浜の住吉神社 ①笠岡・金浦→矢掛・小田 (13km/4:30)



備中とと道トレイルガイドブックより抜粋。実際に歩く折にはより詳細を同書でご参照下さい。説明表題のNOはガイドブック地図中のNOです

JR山陽線が吉田川を渡る鉄橋の南側の海辺に浜の住吉神社がある。須屋の台座には「魚方中、明治27年3月17日」の刻字がある。玉垣には出買連中等の漁業関係者の名前が見られる。

「オシグランゴ」の祈願祭の折には祠の中の八大龍王の御幣を祭って祭典が行われる。

1-6 畑道（魚道遺構）



山陽自動車道の巨大な橋脚の下を過ぎると右手に丘陵の斜面が伸び上がる。とと道は、吉田川を背にしてこの斜面の急な草道を登って行く。何故吉田川沿いのゆるやかな道ではなく、急な坂を登るのだろう？と不思議に思う登りである。川沿いの道は洪水により被害を受けやすいのである。

1-7 助実（すげざね）地区聖地（標高21m）



とと道は丘陵の草道を登りきると、その上に開かれた畑の中を進んでゆく。振り返れば山陽自動車道の巨大な高架橋が眼下になっている。畑を外れると静かな住宅街の中の道となり、ほどなく助実公会堂前の広場に出る。広場には荒神社、常夜灯、大御堂が立ち並び、常夜灯には今でも毎晩明かりがともされる。大御堂には珍しくカラフルな彩色を施された観音様が安置され、8月のお盆には250年も続く水かえ踊りという盆踊りが舞われる。

11月には地区の全員が参加して荒神社の大祭が行われる。県道笠岡井原線への下りの途中、右手に曲がると50mほどの所に縄文時代後期（4千年前）の「助実貝塚跡」がある。地表に大量の貝殻が無造作に散らばっている様子には驚かされる。

1-8 三方位道標



大戸口バス停の自転車置き場の脇に四角柱の道標が有る。明治39年12月と刻字されている。この道標は道路改修の時に移設されたとのことで、刻字からすると「ようすな」と「笠岡」への二俣の北側の道路脇に設置されていたものと思われる。金浦からここまで方向を示す道標は無かったが、この道標によって初めて「ようすな」の名前が現れる。とと道はここから県道を大戸上バス停へと向かう。

1-17 「ふるさとの森」 遊歩道



とと道は丘陵の尾根上を辿る走出新賀線を進む。広域斎場を過ぎると右手に「とと道入口」の道標が現れ、かつての農道を東北へ進む。新設された「ときわヴィレッジ」のビジターセンターの脇を更に進むと、両側から森が迫り、ここがかつてのメインストリートだったとはとても思われない山道となる。しばらく進むと道は「ふるさとの森」遊歩道となり、その先で「どんぐり球場」にぶつかる。この間1kmほどが往時の

とと道が偲ばれる行程である。この先のどんぐり球場からききな峠までは平成1年に「かさおか古代の丘スポーツ公園」**造成のために山自体がそっくり削られ、とと道も約600m消滅**、右に直角に曲がってつけられた迂回路を下る。

1-19 ききな峠 (金浦から10.4km 標高63.2m)



ききな峠は、江戸期には井原玉嶋道が通り、**幕府巡見使通行の記録 (寛政元年1789) が残る**メインストリートだった。当地のK氏 (大正13年生まれ) によれば、祖父 (明治2年生まれ) が明治30年頃まで魚荷を運んでおり、金浦から担いできた人とここで交替して、約40kgの魚籠

を天秤棒で担ぎ、北へ3里ほども運んだと言っているのを聞いたとのことである。

1-27 辻橋跡 (金浦から14.7km)



明治から大正にかけて**甲弩(こうぬ) 地域を通るとと道は農耕地整理事業によって姿を消した**。魚仲仕がお茶の接待を受けたという茶道から先は田園地帯を真っ直ぐ小田川の辻橋へ向ったことだろう。地元の人によればこの橋は昭和17年 (1942) 頃まで使われていたと言う。その後すぐ下流に木造の共栄橋が架けられ、平成8年に現在の橋になっている。